



水素発生装置 基本フロー

リスク評価の考え方

安全対策を講じた上での各想定事故に対して発生可能性と影響度をそれぞれ評価し、リスクを求める。そして、リスクの大きさにより安全対策を評価することとする。

リスクマトリックス

影響度			可能性			
			A	B	C	D
	物的被害	人的被害	ほとんど起こりえない	起こりにくい	可能性がある	十分起こりえる
I	敷地外の施設に物的被害が及ぶ	死者	M	H	H	H
II	敷地内の複数施設に被害	重傷者	M	M	H	H
III	敷地内の一施設に被害	休業災害	L	L	M	H
IV	部品取り替えレベルの故障、損傷	赤チン災害	L	L	L	M

※影響度は物的被害、人的被害の双方を評価し、影響の大きい方を影響度ランクとする。

リスクランクと対応

リスクランク		対応
H	高い	許容できない。更なる安全対策が必要。
M	中程度	原則として許容できない。更なる安全対策が可能かどうか検討し、現実的な対策が見つからない場合に限ってこれを許容する。
L	低い	許容できる。更なる安全対策は不要。

可能性ランクの定義

可能性ランク	起こりやすさ	定義
A	ほとんど起こりえない	多数のスタンドを考えても、発生することは考えられない。
B	起こりにくい	設備の供用期間（20年）において起こりにくいと考えられるが、多数のスタンドを考えると1回程度発生することはある得る。
C	可能性がある	設備の供用期間中において1回程度は考えられる。
D	十分起こりえる	設備の供用期間中において複数回考えられる。

安全対策の適用区分

安全対策の適用区分	
(ア)	構造、性能上等から危険性がないもの
(イ)	安全対策が講じられていることから危険性がないもの
(ウ)	危険性が考えられるが、対策が講じられる可能性があるもの
(エ)	危険性が考えられるもの

水素スタンド改質装置に係わるハザード抽出表(燃料系)

